

第34回市民参加懇談会の結果について

平成21年6月30日
原子力政策担当室

1. 開催日時・場所

日 時：平成21年6月9日（火）15：00～17：00

場 所：中央合同庁舎4号館 2階 共用第3特別会議室

2. 議題

- ・関係省庁の原子力に係る広聴・広報及び教育活動について
- ・市民参加懇談会のこれまでの活動について

3. 議事概要

はじめに、事務局より関係省庁の原子力に係る広聴・広報及び教育活動、並びに、これまでの市民参加懇談会の活動実績及び活動から得られたアンケートなどの情報の整理結果を説明した。これに対して、各専門委員より質疑が行われた。

つづいて、各専門委員より市民参加懇談会の活動を通じて得られた教訓等について、以下の趣旨のご意見を頂いた。

専門委員の主な意見

- ・ 広報の前に広聴との考えは大事であるが、広報活動を根本的に見直さないと広聴すらできない場合もある。
- ・ 原子力委員が直接市民からの意見を聴く場を作ったということが市民参加懇談会の一つの役割であった。
- ・ アンケートによると会場参加者の市民参加懇談会に対する期待度は高い。市民参加懇談会の活動は高く評価されているという認識を持って、発展的解消という形で次の活動に移行すべき。
- ・ 広聴・広報活動については、省庁間で連携し、包括的な方向性・戦略を共有して実施していくべき。
- ・ 広聴・広報の効果を評価するのであれば、質問紙等について、事前にその目的のための設計をしておく必要があった。
- ・ 市民参加懇談会の活動から得られたこうした取組のあり方に関する知見を関係者に幅広く活用してほしい。

- ・ 原子力委員会として今後、原子力政策円卓会議のような形式の活動を実施してほしい。
- ・ 市民参加懇談会において、原子力委員も議論に加わる運営があってもよかった。

最後に、中村座長から、これをもって市民参加懇談会は活動を終了するが、原子力委員会には今後も国民に門戸を開いている状況を継続することを期待するとの発言があり、これを受けて、近藤原子力委員長から、大略以下のような市民参加懇談会の活動に関する総括と関係者に対する謝意が述べられ、閉会した。

総括

- ・ 市民参加懇談会は、原子力施設立地地域及び電力消費地において、様々な政策テーマについて、他に専門家などを交えてコアメンバーが市民と対話する会合を開催してきた。そして、会合の結果については定例会議で報告を受け、政策策定及び政策評価活動において活用するようしてきた。
- ・ 最近に至って、政府も地方自治体も行政運営における国民参加の重要性を認識して、市民との対話の取組を行っている。原子力委員会の市民参加懇談会はそうした取組のさきがけとなり、政策に係る市民との対話の一つの方式を提示できたと考える。報告書にとりまとめられたアンケート調査の結果は、今後同様な会合を設計・運用する際の参考になると考える。
- ・ 毎回の会合における市民の発言に通底しているのは、行政や事業に取り組んでいる者が信頼できるのかどうか知りたいという思いであると感じる。また、信頼に対する疑問が述べられた際には、行政や事業者はその原因になっている情報を理解し、解説や批評を迅速に行うことが大切と感じる。関係者は、説明責任の担い手であることを忘れず、各地で不安・不信に転化する前兆をとらえる感度をとぎすまずこと、そのための市民との対話の方法の更なる進化を追求するべきと考える。
- ・ 原子力委員会としては、政策評価の取組において実施してきたように、今後とも適宜に市民との対話の機会を持つていく所存。また、関係機関に対しても、市民参加懇談会の運営で蓄積した知見の活用も含めて、市民との対話の重要性に関して注意を喚起していく所存。
- ・ 歴代のコアメンバーの皆様、これまで市民参加懇談会の運営にご尽力を賜ったことに対して心から御礼を申し上げる。